

令和6年度 西原町赤十字奉仕団 定期総会及び出発式開催！

令和6年4月23日に西原町赤十字奉仕団定期総会及び社資募集出発式が開催されました。当日は、日本赤十字社沖縄県支部より上間司事務局長、備瀬知貴参事もご参加頂きました。5月の社資募集期間を迎えるにあたって、西原町分区長(崎原盛秀町長)より社資募金第1号としてご協力頂きました。

赤十字奉仕団とは…「赤十字のボランティア活動を通じて地域社会に貢献したい」という思いをもつ方々によって、市区町村ごとに設けられたボランティア組織のことです。日常生活を通じて、赤十字の精神の実践に努め、地域保健福祉活動に貢献しております。主な活動内容は、社資募集や街頭募金活動などです。

本町では、現在21名の団員が活動しております。地域を支える担い手として、幅広い年代の方の団員を現在募集しております。奉仕団活動にご興味ある方は下記までお問い合わせください。



【お問い合わせ】
福祉課 社会福祉係
☎098-945-4791



1945年(昭和20)年 米軍撮影
運玉森が見える空中写真(北東側か)
【沖縄県公文書館 所蔵】



現在の運玉森(北側)

※『西原町史第三巻・資料編二西原の戦時記録』
昭和62年 P689・下段2行目～4行目
参考資料:西原町史編纂委員会『西原町史第三巻・
資料編二西原の戦時記録』西原町役場 昭和62年
防衛庁防衛研究所戦史室『戦史叢書沖縄方面陸軍
作戦』株式会社朝雲新聞社昭和43年
アメリカ陸軍戦史局『沖縄戦 第二次世界大戦最
後の戦い』出版会Mugen 2011年

「百万ドルの山」という言葉を聞いたことがありますが、西原に住んでいる人なら誰でも目にすることがある西原の南に広がる山「運玉森」を指します。「百万ドルの夜景」で有名な函館のような夜景が、運玉森から見えるのかと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、そのようなロマンティックなものではなく、沖縄戦の時、米海軍が中城湾から運玉森に向かって百万ドルにも値する程多くの砲弾を撃ち込んだことに由来します。

沖縄戦当時の西原では、司令部のある首里を目指す米軍と日本軍とが激戦を繰り広げました。日本軍が守っている運玉森を米軍が陥落できれば、首里を東側から目指すことができま

す。日米両軍にとって、運玉森は非常に重要な場所でした。

米軍は、四月一日の上陸後、同月九日には、千原のイシダスクに到達し、西原は激戦に巻き込まれていきました。運玉森のふもとにある安室集落に残る証言では、「昼間は中城湾からの艦砲射撃が激しく、外には出られなかつた。特に四月二〇日の艦砲射撃が

が一番激しく、西原全体が艦砲弾で焼き払われたかと思えるほどであった」(※)といひます。四月末に避難した住民の中には運玉森を越える時に犠牲になった者も多く、戦後も集落内は艦砲弾の破片だらけで裸足では歩けなかつたといひます。桃原集落でも、艦砲射撃による被災が酷かつたようです。そして、村内を進攻する米軍の陸上部隊は、五月上旬には、運玉森へと到達し、日本軍と二進一退の攻防を続けました。同月二日には、運玉森の東側斜面はほとんど米軍に占領されました。

戦後も運玉森では不発弾が発火し、しばしば火事が起きていました。運玉森へ向かう消防車のサイレンが記憶に残っている方もいるのではないのでしょうか。百万ドルの砲弾が撃ち込まれた山は、戦後もその影響を大きく残しています。西原のどこからでも見える美しい山が経験した沖縄戦について、戦後七十九目の今、考えてみませんか。

文化財コラム

百万ドルの山

わったー まちの話題

4月20日(土) 海水浴シーズン到来 きらきらビーチ海開き

快晴の中、西原きらきらビーチにて海開きが行われました。海開きのセレモニーにて、きらきらビーチの指定管理者である株式会社クリード沖縄の玉城大地代表取締役社長は「天気恵まれ、盛大に海開きができて嬉しい。みんなから愛されるビーチを目指して安全第一で運営していく」とあいさつしました。

正面入り口の特設ステージには太鼓演舞やダンスショー、ビーチでは宝探しゲームやバナナボード無料体験など、親子で楽しめるイベントで賑わいました。

初泳ぎを楽しむこどもたちからは「つめたーい」「きもちーい」などの声が響き、夏の到来を感じる日となりました。



「海きもちい。毎日いきたいかも」



4月22日(月) J A親子手帳ケース贈呈式



J A沖縄共済連沖縄県本部およびJ Aおきなわ西原支店より「親子健康手帳ケース」300個の贈呈がありました。この活動は、J A共済が「安心して子育てができる環境づくり」を目指してスタートし、今年で8年目となります。西原支店の富山秀樹支店長は「地域貢献として子育て支援の一助となれば幸いです」と話しました。



◀さわふじやハイビスカスがおしゃれにデザイン！カード類や筆記用具が収納できて便利！ケースは親子健康手帳の発行時に役場窓口で配布しています。

4月25日(木) ぐんぐん元気に大きくなーれ 鯉のぼり掲揚式



◀西原町電設会の協力により中央公民館に飾りつけられた鯉のぼりが青空を泳ぐ。



◀さわりんダンスを元気いっぱい踊る園児たち

西原町社会福祉協議会による第17回手作り鯉のぼり掲揚式が町中央公民館で開かれました。あいにくの雨となり公民館での開催となりましたが、町内から100人あまりの園児が集まり、会場はにぎやかな雰囲気包まれていました。町社協の新垣正祐会長は「天高く泳ぐ鯉のぼりのように元気に育ててください」とあいさつ。園児たちは雨にも負けず、鯉のぼりの歌とさわりんダンスを伸び伸びと楽しみました。

5月8日(水) 西原でゴーヤー旬入り宣言 ゴーヤーの日セレモニー

5月8日は「ゴーヤーの日」です。沖縄県産のゴーヤーの産地地消、消費拡大に向けた「ゴーヤーの日」セレモニーが西原さわふじマルシェで開かれました。

セレモニーは、さざなみ保育園の園児による「さわりんダンス」で幕開け。主催者あいさつで沖縄県農林水産物販売促進協議会の前田典男会長は「ゴーヤーを食べて元気になりましょう!」と呼びかけました。玉城デニー知事に代わり前門尚美県農林水産部長が「ゴーヤーの日」を宣言。

開催産地として崎原盛秀町長は「西原町、沖縄から全国へゴーヤーを発信していきましょう!」と力強くあいさつしました。

当日の西原さわふじマルシェでは、「ゴーヤー」にちなんで1本58円、1袋が「いいゴーヤー」の158円で特別販売され、大盛況となりました。



◀生産者を代表して中部地区野菜生産出荷協議会の仲直輝会長からさざなみ保育園の園児へ収穫されたばかりのゴーヤーをプレゼント